

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

三年間の成長

校長 香西雅斗

科学と自然の散歩みちの桜が咲く中、三年生たちは見事な姿を見せながら、それぞれの進路に向けて羽ばたいていきました。

私は毎年、三年生全員と面接練習などで話してから卒業証書をわたしています。今年も、どの生徒からも、中学時代の思い出や将来の夢など興味深いことが聞けました。ここで二人の話を紹介します。

1年生の時は、ささいな事でかっとなりやすく、手が出るトラブルも絶えなかったA君。授業中もしょっちゅう机に伏せていました。ところがA君は、しっかり目を見て、内容の濃い受け答えをする生徒になっていました。

「僕が変われたのは、友達のおかげです。1年の頃はけんかばかりでしたが、僕を見捨てず付き合いを続けてくれました。2年になって、このままじゃいけないと思い、友達と話しながらだんだん自分をなおしていきました。感謝してます。」

Bさんは、入学以来ずっと人間関係で悩み、周囲の心ない言葉に傷つくこともしばしばありました。3年生になって志望校を決めたBさんは、勉強や提出物を必死に頑張り、自分の目標の成績を達成しました。最初の面接では、周囲への不満や恨みを口にしていたBさんが、本番直前に話したのは「今まで必死に勉強してきたのですが、最近ふと、自分は何で勉強しているのだろうか、何のためにって考えちゃうんです。」

そして最後に、私は将来、自分の様に苦しんでる人のためになれる人になりたい、と話していました。

卒業生たちは、周囲とぶつかり合い苦しみ悩む中で、自分のことを深く知り、相手への理解を深め、自分たちの未来に向けチャレンジしてきました。『本当の貧困の話をしよう』という本の中で、著者の新井光太さんはこう語っています。(以下抜粋。…は省略部分)

人は一度考えるのをあきらめてしまうと、泳ぎをやめた魚のようにどんどん沈んでいくことになる。…思考停止するのではなく、自分の未来について考えていく力をもつことが大切なんだ。…その訓練の場はどこなのか。それが、学校なんだ。…学校生活を通じて身につけるのは次のようなことだ。

- ① 学校という社会の中で、居場所の見つけ方や、自己主張の仕方を学んでいく。
- ② いろいろな家庭や仕事や人を知り、自分にとっての夢や理想を見つける。
- ③ 困難の壁が立ちふさがった時、誰に助けを求め、どうやって乗り越えるかを知る。
- ④ 自分だけでなく、他人を思いやる気持ちが、最終的に自分を救うことに気づく。

学校とは単に学力をつけるだけでなく、社会で生きていくために必要なスキルを身につける場なんだ。…学校へ通っている君であれば、先生の言葉や同級生と触れ合う中で、知らず知らずのうちに、このような術(すべ)を身につけているだろう。

でも、ストリートチルドレンは…

振り返ってみると、人と人との繋がりが希薄になりがちな1年間でしたが、中瀬中は体育大会・音楽発表会・卒業式など学級、学年、そして全校での繋がりを大切にしてきました。

新年度は地域・保護者との繋がりも強め、生徒たちにとって、上記の①～④につながる体験が多くでき、これまで以上にそれらを身につけていく中瀬中を目指していきます。



卒業生とのお別れの会

卒業式の前日、全校そろっての3年生を送る会の代わりに、2年生は体育館で3年生を迎え、卒業生としてのメッセージを受け、中瀬中というバトンを受け取りました。また1年生は教室で、タブレットを使った中継で参加しました。その様子を1年生の学年日よりから紹介します。



<代表生徒・委員長・部長よりのメッセージ>

「先輩たち(2年生も含む)のきちんとした姿がかっこいい」「今度は自分たちが先輩としてのしっかりとした力を身につけたい」という内容を書いた人がたくさんいた。

ただ年月を重ねるだけで、卒業生や今の2年生のようになれるわけではないことぐらい、みんな分かっているはずだ。中学校生活の様々な取り組みに精一杯、誠実に取り組んできたからあの姿がある。

君たちもやる前から心配しすぎないで、実際に行動してみる。頭の中で考えた精一杯を突き破って「精一杯の向こう側」に行けるくらい頑張ってみるんだ。自分の壁を破ることが成長することだ。つらいこともあるだろう。苦しいこともあるはずだ。でも、それを乗り越えたときの喜びは格別だ。

つらいときこそ、苦しいときこそ、みんなで支え合って、それぞれの力を伸ばして「かっこいい」先輩になろう。君たちは自分が思っている以上に力を秘めているのだから。(1学年主任 宮越)

3年生が入場する時、その大きな背中を見て、憧れと同時に次は自分たちだという大きな責任が私の中に生まれました。合唱では3年生の強い歌声が心に響き、歌で心を動かせる3年生を、そして中瀬中学生であることを心から誇りに思う。3年生が教えてくれた大切なこと、そして音楽、全て引き継いで、これから入ってくる後輩に伝えてあげたいと思った。

1D 笹村 ひなの



<卒業生の黒板アート 3D>

3年生の話聞いて、3年間はあっという間なんだろうなと思った。コロナでできないことがたくさんあるけれど、その中でも、今、過ごしている日々を大切にしていこうと思う。また、3年生の姿を見て、自分もこんな先輩になれるようになりたいと思った。来年度からは2年生として後輩の面倒を見たりするので大変だと思うけれど、その都度学んで成長して今の3年生のようになれるようにがんばりたい。3年生がここまでがんばれたのは支え合ってきた仲間のおかげだと思う。自分も短い3年間で、友だちとの関係を大切にしておきたい。1B 椿 一京

2年生がみんな背筋を伸ばして緊張感をもってしている姿がとても印象的だった。来年は私たちも2年生のように体育館で見られるかもしれないからその時の態度の参考にしたいと思われた。また、3年生の立派で中瀬の卒業生として胸を張っている姿、堂々としている姿が目に残り、堂々として「もう先輩がいなくなってしまうんだ」という寂しさも同時に覚えた。私たちが今の先輩を見習って行動したいという目標になった。

1A 宮澤 紗希

全てがそろっていた。最後の歌がすこかった。本当に別れるんだと思った。仲のよい人もいるので別れると思っただけで悲しくなかった。これから自分たちが委員会や部活などを引っ張っていくんだと思う。あつという間の3年間だろうが、残っている時間を楽しみたい。

1C 國村 悠真



<卒業生の黒板アート 3B>



<最後の学活 3C>

「響かせるのは音だけでなく思い・心」という卒業生の最後の言葉が印象的な別れの会でした。



<八成小5年生へ協力 古着回収>



<2年生の学年レク>

中止になったスキー教室の夜に予定されていた“学年レク”を、自分たちで企画しみんなで楽しみました。



<1年生球技大会>